

シンポジウムS3 ミャンマーの古霊長類学

11月4日 A会場 9:20-11:00

オーガナイザー：高井 正成（京都大・霊長研）

ミャンマー中部を南北に縦断するイラワジ河流域には、第三紀の陸成層が広範囲に分布しており、陸生動物化石を豊富に産出することで知られてきた。京都大学霊長類研究所では、2002年より霊長類化石の発掘を主目的とした古生物学的調査を行い、これまでに中新世末～前期更新世の複数の地点で4種類のオナガザル科（旧世界ザル類）の化石を発見してきた。2017年2月の調査において、新たに後期中新世初頭の地点からシバピテクス類と思われるヒト上科の化石を発見した。本シンポジウムでは、この新化石に関する予備的な解析結果を報告し、東南アジア地域における霊長類相と共産する動物化石相の変化、年代推定、古環境復元に関して検討する。

S3-1 ミャンマーから出土した新第三紀の霊長類化石／高井 正成（京都大・霊長研）

S3-2 ミャンマーのポッパ火山の西麓でイラワジ層を覆う凝灰岩／佐野 貴司（科博・地学）

S3-3 ミャンマー中央部の後期中新世ホミノイド産地から発見されたウシ科化石群集に基づく年代考察／西岡 佑一郎（早稲田大・高等研）

S3-4 ミャンマー中部で発見されたホミノイド化石について／河野 礼子（慶應大・文）